

進修同窓会報

平成6年10月15日 第51号 発行 土浦一高進修同窓会 編集人 同窓会報編集委員会 委員長 遠藤俊夫



目次

- 二面 平成六年度 総会
会長あいさつ
- 三面 学校長あいさつ
- 四面 創立一〇〇周年実行委員会発会
- 五面 寄稿(平塚寛次郎氏)
- 六・七面 支部だより
- 八面 PTA会長あいさつ
- 九・十二面 母校だより

土浦一高校歌

堀越 晋 作詩
尾崎 楠馬 作曲

一、沃野一望数百里 関八州の重鎮として

そそり立ちたり筑波山 空の碧をさながらに
湛えて寄する漣波は 終古渝らぬ霞浦の水

二、春の弥生は桜川 其の源の香を載せて

流に浮かぶ花筏 蘆の枯葉に秋立てば
渡る雁声冴えて 湖心に澄むや月の影

三、此の山水の美を享けて 我に寛雅の度量あり

此の秀麗の氣を享けて 我に至誠の精神あり
東国男児の血を享けて 我に武勇の氣魂あり

四、筑波の山のいや高く 霞ヶ浦のいや広く

嗚呼 桜水の旗立てて 我が校風を輝かせ
亀城五百の健男児 亀城五百の健男児

平成六年度

進修同窓会総会開く

四月十日(日)、本年度定期総会が、好天に恵まれ、母校体育館にて二百五十余名の会員参加のもとに盛大に開催された。

校歌斉唱・物故会員に対する黙禱ののち、坂本副会長・青山校長の挨拶があり、酒井亨氏(中47)を議長に以下の議事が審議された。

- 一、平成五年度事業報告並びに決算報告
- 二、平成六年度事業計画並びに予算
- 三、同窓会基金報告



- 四、別途積立金報告
- 五、九十周年記念事業募金預金現在高報告

- 六、同窓会規約の一部改正
- 七、一〇〇周年記念事業

全議案とも満場一致により可決・承認されたが、特に、七号議案については、

- 一、趣意書
- 一、実行委員会規約
- 一、実行委員会組織
- 一、募金要項
- 一、募金使途計画

一、一〇〇周年記念事業予算など、綿密な計画にもとづいた議案の審議が熱心になされ計画が承認された。

閉会の後、恒例の卒業周年祝賀会にうつり、中二三回・中四三回・高六回・定四回・高二十回・定十八回の会員がそれぞれ卒業六十・五十・四十・二十五周年の記念の年を迎えられ、坂本副会長・岡野昇氏(中44)よりの祝賀・記念品贈呈があり、中四三回の中根時男氏より謝辞がのべられた。

また、会場を変えての懇親会では、往時を懐かしんでの交歓が和やかな雰囲気のもとくりひろげられ、散会した。

会長あいさつ

同窓会会長 幡谷 祐一



会員の皆様にはお変わりなくご清祥にてお過ごしのことと存じます。

平成九年には、土浦一高創立一〇〇周年を迎えることになりました。

この一世紀という記念すべき節目の記念事業に関する会合が本部役員の方々によって初めて持たれたのが平成二年度と伺っております。数回の会合を経まして大きな事業である「同窓会館の建設」ということで委員の意思が統一されたと伺いました。

私が尊敬申し上げる八木下会長から同窓会長の役をお引受けしたのが平成三年で当然引継懸案事項として同窓会館建設がありました。

その構想は、当時の社会情勢の影響でかなり壮大なものであり、会員一人一人の負担を考えますとそのままでは推進しにくいものであります。加えてバブル崩壊後

の経済情勢となったため、必然的に規模の見直しを図らざるを得ませんでした。

規模は最初の構想と同じ、会員の負担は半分以下になる方策はないかと大曽根前校長先生と約二年間手を尽くして今の計画に辿りつき、やっと本格的に動き出す機運が熟したとおもっています。

平成六年度に入り、手続き等具体的段取りを進めるとともに、募金の呼びかけ・働きかけのために従来の実行委員会を拡充し特に募金委員は沢山の方々に協力をお願いしようということになり、各卒業回の評議員、幹事の方々に加え卒業各回とも数名の方々に役員をお願いすることになりました。

その拡大実行委員会の発会式をさる七月二十三日霞ヶ浦観光ホテルで開催いたしました。ともあれやっと一〇〇周年の記念事業の道筋が決まり、いま走りだそうとしているわけです。募金というものはなかなかお願いしにくいものであり、尚かつ大金でもあるので、果たして目標完遂できるのか甚だ心細いことであります。何事も事を成すには周到な計画とそれに伴う実行部隊がいなければなりません。多くの同窓生、委員の皆さん方の発言は心強い限りであり、

必ずや目標は達成できるものと思っております。

また、寄付は幅広く卒業生から募ることが大切であります。母校に対する愛情をこめて是非とも多くの方々のご協力を、と願っております。

一〇〇年という歳月はそれなりの重みがあり、歴史も一〇〇年経つてはじめて評価されると聞いております。我々が母校は今や日本有数の学校に数えられるまでに成長いたしました。教職員の皆様の努力は申すまでもありませんが、同窓会の活躍もこの評価には大いに役だっているものと思っております。

私は、この期に同窓会長という大役を与えられ、身の引き締まる思いを禁じ得ません。親子二代にわたり同窓会長をお引受けしたわけですがこの伝統と光輝を更に磨くべく全力を投球して目的完遂に努力する所存です。

土浦一高に栄光あれ！

祝 叙 勲

勲四等旭日小綬章

高野 克夫(中36回)

東京都渋谷区西原3-36-24

勲四等瑞宝章

岡野 全之(中39回)

つくば市北太田553

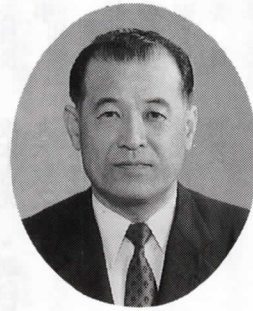
勲五等双光旭日章

石川 寿彦(中31回)

土浦市中央1-7-14

一〇〇周年にむけて
同窓会活動と本校の現状について

校長 青山和義



進修同窓会の皆様には、御壮健で、御活躍されていることを心から喜び申し上げます。

平成九年に迎えます本校創立一〇〇周年にしましては、さる四月十日の「平成六年度進修同窓会総会」におきまして、記念事業の大枠が承認され、幡谷祐一同窓会長を実行委員長として、同窓会PTA、学校が一体となり準備を進めていくことになりました。

この事業の中核になりますのは、会員の皆様の寄付による同窓会館兼アリーナ（小体育館）の建設です。学校としても大きな期待をしており、厳しい不況の時ですが皆様の御協力により、募金目標が達成されることを心から願っています。

事務局を担当する学校の取り組みと致しましては、これまでに募金活動の許可申請、寄付金の所得税控除申請、募金委員の委嘱等を行って来たところです。募金活動の許可につきましては、五月三十

日付けで県から許可が下りています。

学校内にも一〇〇周年記念事業校内実行委員会を発足させ、特に建築に関する要望のとりまとめや、記念誌発行に係わる資料収集を継続して行ってきたております。資料の収集にしましては、同窓会員の皆様には、様々な形で御協力をいただきたいと思いますのでその際はよろしくお願いいたします。

先輩方の活躍には在校生にとりまして大変励みになり、自信と勇気が与えられ、意欲が高められるものです。この一年間の中で、学校で把握しております中から三人の方をご紹介します。

まず、高校5回卒の埴哲夫氏が高等学校卒業だけの学歴でエクアドル大使に任命されました。全国紙で他の四人の東京大学卒の大使とともに紹介されましたので余計に目立ちました。週刊誌や地元紙でも大きく報道され、その実力と努力が賞讃されました。講演をお願いしたところ、御多忙な日程を繰り合わせて下さり、七月十六日に土浦市民会館において「中南米と私」という演題で中南米の現状と日本との関わりについて、幅広い知識と確かな洞察力を背景とした話をされ、生徒に深い感銘を与えて下さいました。

次は、高校19回卒の薄井雄二氏が吉川英治文学賞を受賞されました。やはり新聞、雑誌等で紹介されましたが、本校卒業生で現役で作家活動をされている方は少なく、この面でも生徒に希望と自信を与えていただきました。更に、高校44回卒で現在東京大学在学中の大西まり子さんが一昨年のつくばマラソン大会で優勝し、昨年は外国からの招待選手や日本の一流選手が参加した大阪国際女子マラソン大会に参加し、文武両道の実践者として話題となりました。順位は28位でしたが、高校時代はバスケットボール部員だったので本格的に走り始めたのは、高校卒業後だそうですので、今後の活躍が期待できそうです。

同窓会員の皆様には、これまでも物心両面で御援助・御協力をいただいておりますが、昨年度は高校6回卒の奥村好太郎氏と高校8回卒大久保滋氏が共同で制作し自費出版された写真集「気韻生動」五〇〇冊が学校に寄贈されました。この写真集は、国指定の重要文化財である旧本館を六年がかりで撮影された力作で、高校11回卒で建築文化史家の一色史彦氏も一文を寄せています。新聞で報道されたため入手希望者が多数来校され、求めて行かれましたので残念ながら現在は学校保存分だけしか残っておりません。

教育活動への援助といたしましては、昨年度同窓会基金より吹奏楽関係楽器、複写機、パソコン、ファインシステム、印刷機を購入していただきました。本当にありがたいございました。教育活動にたいへん助かっております。ここで学校の現状について少し御報告いたします。

県の段階で、大きな制度上の改革が二つありました。一つは昨年度行われた通学区の区割り変更で、県内8学区から5学区になりました。この変更に伴い、従来学区内であった「つくば市（桜・大穂・豊里・谷田部、筑波）」が学区外となり、代わって学区外であった牛久市、竜ヶ崎市の取手市などが学区内になりました。

また、隣接学区から入学できる制限比率も15%から30%に拡大されました。この影響として、つくば市からの入学者が一学年約30名減少し、その分牛久、竜ヶ崎からの生徒が増加しました。

二つ目は、今年度から実施されました入学者選抜制度の改善です。中学校の学習指導要領改正に伴うもので、主な改善点は、調査書の評定・評価を点数化し、学力検査の得点と点数化した調査書点の比率を学校の実態に応じて選んで使用することが可能になったことと、検査問題に教科内選択問題が導入されたことです。この影響は現在のところ従来と顕著な違いは表れておりません。本校のことにつきまして、少々御報告いたします。生徒数は全日制普通科千五十五

名、理数科百二十三名、計千七百十八名、定時制普通科九十二名で、女子の割合は、全日制34%、定時制25%です。今春の全日制の進学状況ですが非常に良好で、これまでに多くの大学合格者を記録いたしました。東大、東工大、早大、慶大など名門難関校と呼ばれている大学への合格者が史上最高となりました。詳しくは、母校だよりの十一面をご覧ください。

学校行事については、伝統ある一高祭、進路講演会、本物の雰囲気味わう芸術鑑賞、ボランティア活動、大学及び職場見学、歩く会、一高オリンピックと例年の通り多彩な行事を行っています。

全日制生徒は、全員が大学進学希望ですので、日常での授業を重視し授業の質を高め、大学進学に十分通用する学力をつける学習指導を行っています。更に部活動や学校行事を通して自主、協同、責任の校訓をモットーに資質の向上と豊かな人間性の育成に努めています。

最後になりましたが、私はこの四月の定期異動で竜ヶ崎南高校から転任して参りました。

高校8回卒業で、教員の出発が本校で、十年間勤務してまいりましたので、二十三年ぶり二回目の勤務となります。

微力ながら本校発展のために努力したいとおもいますので、ご支援ご協力よろしくお願いいたします。

盛大に実行委員会発会式開催

出席者一五〇名が参加

平成六年七月二十三日、霞ヶ浦観光ホテルにて土浦一高創立一〇〇周年記念事業実行委員会発会式が開かれた。本部役員会に続いて、実行委員会が開かれ、記念事業の構想及び募金活動の趣旨説明が行なわれた。

一〇〇周年記念事業実行委員会は平成三年度に組織され、本部役員(32人)、学校職員代表(12人)、PTA代表(15人)で構成し、基本構想の準備を進めてきたが、基本構想がまとまったことに伴い、募金活動を開始する運びとなった。

そこで、実行委員会の組織・構成も拡充し万全を期すことになった。実行委員会の構成は、次のようである。

実行委員長 幡谷祐一 同窓会長
副委員長 坂本吉光 副会長
監事 丸木政之助
鈴木輝雄

(一)総務委員

委員長 幡谷祐一

副委員長 坂本吉光

委員 39名

(二)募金委員

委員長 幡谷祐一

副委員長 坂本吉光

委員 豊嶋 貴

幡谷浩史

大曾根宏亮

委員 桜井光孝
592名

(三)建設委員

委員長 坂本吉光

副委員長 豊嶋 貴

貝塚安生

青山和義

委員 23人

(四)記念誌編集委員

委員長 横田尚義

副委員長 大曾根宏亮

委員 22名

(五)同窓会名簿編集委員

委員長 坂本吉光

副委員長 梅沢正之進

委員 7名

(六)式典委員

委員長 遠藤俊夫

副委員長 木村 継

委員 13人

尚、全ての委員会に、事務局員として学校職員が加わります。

募金協力をお願い

各卒業回毎の募金目標

総額二億二千万以上の募金目標を達成するため、本部委員会では、各卒業回毎の募金目標を、前回・前々回の募金状況から下表のように設定しました。

各卒業回数別 募金目標額

卒業回数	募金目標 万円
中1～25	100
26	30
27	40
28	50
29	40
30	50
31	60
32	70
33	80
34	60
35	70
36	70
37	70
38	80
39	90
40	110
41	110
42	130
43	130
44	210
45	200
46, 47	260
中48, 高1	340
中49, 高2	300

卒業回数	募金目標 万円
併中1, 高3	450
併中2, 高4	380
高 5	340
6	400
7	420
8	450
9	440
10	450
11	440
12	440
13	450
14	450
15	460
16	410
17	440
18	510
19	510
20	500
21	460
22	440
23	440

卒業回数	卒業年	募金目標 万円
高24, 理数1	昭 47	400
高25, 理数2	48	380
高26, 理数3	49	350
高27, 理数4	50	350
高28, 理数5	51	330
高29, 理数6	52	320
高30, 理数7	53	270
高31, 理数8	54	250
高32, 理数9	55	240
高33, 理数10	56	250
高34, 理数11	57	240
高35, 理数12	58	210
高36, 理数13	59	190
高37, 理数14	60	180
高38, 理数15	61	160
高39, 理数16	62	150
高40, 理数17	63	150
高41, 理数18	平成 元	110
高42, 理数19	2	90
高43, 理数20	3	70
高44, 理数21	4	60
高45, 理数22	5	50
高46, 理数23	6	50
高47, 理数24	7	50
定1～13 龍	昭27～39	820
定14～23	40～49	650
定24～33	50～59	110
定34～43	60～平6	20

募金の基本方針

各卒業回毎に募金委員を中心に集める。

お願い

大口寄金(一〇〇万円を超える)

は、できるだけ各卒業目標とは別

口にする。

これは、目標額達成をできるだけたくさんの方の協力の協力により行いたいからです。

ご注意

◎ 現金による寄金は、必ず会長

印のある「公式領収書」を受け取って下さい。(口座振込の寄付は後日領収証を送付します。)

◎ 便乗、ニセ募金が出現する可能性があります。十分注意して下さい。

中学四三回 平塚寛次郎

43	3,000	武藤一丸	43	3,000	大塚嘉孝	43	3,000	野口信夫	43	3,000	鈴木勝	男子
43	3,000	高橋輝雄	43	3,000	横田照治	43	3,000	佐野順之助	高中	34	3,000	容健
43	3,000	秋山秀	43	3,000	久保文雄	43	3,000	高野光亨	高	48	3,000	清幸
43	3,000	松本好祐	43	3,000	飯田隆英	43	3,000	高野村和章	高	43	3,000	司彦
43	3,000	藤井正巳	43	3,000	柴崎四郎	43	3,000	植木和郎	高	1	3,000	幸則
43	3,000	高木昭二	43	3,000	幸三	43	3,000	鳥居	高	42	3,000	幸真
43	3,000	小島三雄	43	3,000	飯田幸彦	43	3,000	小島和郎	高	8	3,000	会
43	3,000	村松松寿	43	3,000	忠浪	43	3,000	根本実男	定時部	5	30,000	有志一同
43	3,000	坂本修	43	3,000	関雄	43	3,000	根本三男	高	6	150,000	有志一同
43	3,000	米山政雄	43	3,000	浜田昭	43	3,000	松浦恒一	中	40	30,000	有志一同
43	3,000	内田節	43	3,000	小神野忠	43	3,000	立花正一	進修同窓会	5	6年度	芳名簿
43	3,000	川津正美	43	3,000	相沢忠	43	3,000	小菅正之	終身会	24	30,000	八木下繁
43	3,000	野田起一郎	43	3,000	大越義夫	43	3,000	柴山登	中高	7	30,000	安昌克
43	3,000	中嶋達三	43	3,000	佐野克男	43	3,000	山口瀬	中高	11	30,000	鈴木柳
43	3,000	平塚寛次郎	43	3,000	井上孝雄	43	3,000	根本尾	高	29	30,000	柳賢
43	3,000	中根時男	43	3,000	大内守	43	3,000	瀬田慶				
43	3,000	林雄宏	43	3,000	篠崎良男	43	3,000					
43	3,000	坪山幸	43	3,000	田山幸	43	3,000					

支部会だより

高津天川支部

高津天川支部は、土浦市旧中家村の上・中・下高津と国分町永国町を網羅し会員五百余名の大きな所帯です。

支部長一、副支部長八、監事二、幹事四〇余名の役員をもって運営に当たっています。役員の多いのが特色で、会員約11名に一人の割合で労をとっています。

宮本西嗣支部長は、いくつかの大学で教鞭を執られるなど、公務多忙の中、二〇〇年に渡り運営発展のために力を入れて下さっています。特に、支部結成当初の一〇〇年間は、円滑な運営の基盤づくりに大活躍をして下さいました。

現在では、副支部長以下各役員も各方面において、現役で活躍中であると同時に、この会の運営に積極的に当たって下さる方々で構成されています。

毎年五月に総会を開き、総会のための準備会を三・四回（このうち一回は、忘年会を兼ねてます）開いています。

会員の親睦のため昨年は、ファミリーバスハイイク、春秋ゴルフ会、ボウリング大会等を実施しました。

また、会員間の交流の状況、母校・本部の動静の広報のため、役員有志六・七名からなる編集委員会を結成し、会誌の発行を行っています。

います。会誌の会員への配布は、全役員が手分けして当り、一五〇〇円の年会費集金もついでに行ったりしています。

宮本支部長は、支部の順調な活動を見て、そろそろ後進に道を譲りたいという意向を表わされることもありますが、宮本会長の名前の案内状だからこそ総会等の出席の良さが保たれるという声におされて辞めるに辞められないという悩みをおもちのようです。

土浦支部

木島幸夫（高一回）

平成六年六月一七日、市内中央の霞月楼にて土浦支部総会を開きました。

今回は、母校創立一〇〇周年の記念事業の大綱も決定しましたので是非多数の会員に、ご報告したいと思ひ、霞月楼社長の堀越君にお願いして、四〇〇通の総会案内を送ると共に、一〇〇周年記念事業計画書や募金趣意書等の資料を整え、記念事業の詳細な説明のために、大曾根前校長及び青山現校長の臨席をお願いするなど万全の準備をし、盛会を期したのですが、当日、同じ時刻に土浦商工会会頭湯原氏の叙勲祝賀会が開かれていましたので、結果としては、

この総会への出席常連の方でも欠席される方が出たりして、事前情報収集力不足を深く反省させられました。

土浦支部会員は、名簿の上では、六四三名に達していますが、当日の出席者は、5%程度にとどまっています。

それでも、本部副会長の坂本吉光さんなどは、叙勲祝賀会を中座されてまで、支部総会に馳せ参じて下さりまして深く感激した次第です。いづれにしても当日の支部総会は、初めて出席された会員を含め少人数にもかかわらず、あとの懇親会も和やかに、いろいろな話に花が咲き有意義なうちに進行することができました。

真鍋支部

支部長 豊嶋 貴（中三十七回）

昨年九月、土田支部長のあとを受けて、はからずも真鍋支部長に推せんされ、お引受けいたしました。

前任の土田支部長には、昭和四十年四月から昨年八月亡くなられるまで、二十三年余の長い間、真鍋支部の運営発展に尽力されまして、ここに、心からその活動に感謝いたしますと共にご冥福をお祈り申し上げます。

前任者からの懸案でありました支部会員名簿の発行と財政の確立について、引続いて理事の皆さんと協議を重ねた結果、名簿については、本年二月に完成、理事の皆さんに名簿の配布と会費（二千円）

の納入についてお骨折を頂きました。

会費を納入した会員は三七七名にのぼり、財政の確立も出来ましたので、昨年開かなかった支部総会を去る六月二十六日（日）正午、プラザ平安土浦で開き、会員三五名が出席しました。

総会は、支部長の挨拶のあと来賓として出席された坂本吉光同窓会副会長から、真鍋小から中学校に進んだ者で「なでしこ会」が結成され、毎年四月に卒業された先輩を招いて講演会が開かれ、大いに発奮したこと。また菊田慎一郎さん宅で、当時の時局問題を論じ合った事が思い出話として語られました。

青山学校長から挨拶並びに一高の近況報告があり、特に平成九年に迎える創立一〇〇周年記念事業の内容と会員の皆さんへの協力が必要とされました。

次いで、小野治市議（高九回）から、市政報告、特に国道一二五号の赤池通過に伴う、赤池付近の整備と公園建設等の活動報告がありました。

議事に入り、支部会員名簿作成にお骨折り頂いた関内氏（中三九回）に記念品を贈り、労をねぎらいました。次いで、会計報告等のうち、支部運営について協議を行いました。

総会のあと、片岡先生の叙勲祝賀を兼ね懇親会を行いました。

支部長 栖戸 博（中三五回）

進修同窓会平成5年度会費			進修同窓会平成6年度会費		
納入者芳名簿	金額	納入者芳名簿	金額	納入者芳名簿	金額
(同窓会報第50号に掲載以降)			(平成6.9.30現在)		
中 35 8,000	小野留兵衛	30 3,000	市村正二	30 3,000	孝一雄
35 8,000	桜井秀光	30 3,000	宇佐美全	30 3,000	原田正太郎
26 3,000	奥井三郎	30 3,000	小野達郎	30 3,000	長谷川正春
26 3,000	宮崎市郎	30 3,000	大越敏	30 3,000	藤田福松
26 3,000	塚本栄次郎	30 3,000	風見市郎	30 3,000	前田邦助
26 3,000	東郷政延	30 3,000	小池義茂	30 3,000	村田清
26 3,000	秋元房夫	30 3,000	小林茂助	30 3,000	若泉寅男
4 3,000	大曾根亮吉	30 3,000	佐野隆之	30 3,000	茂在元光
26 9,000	鈴木春吉	30 3,000	酒井守豊	30 3,000	小金子明
	(3年分)	30 3,000	桜井与平	30 3,000	奥井資郎
30 3,000	小松崎孝	30 3,000	島田四郎	30 3,000	恒本(玉田)義次
27 3,000	鈴木重之助	30 9,000	関仁太郎	30 3,000	飯岡英雄
41 3,000	海保香織	30 3,000	辻中村大十郎	30 3,000	飯田輝英
30 3,000	青木信市	30 3,000	箱田清	30 3,000	飯田謙吉
30 3,000	石上茂右衛門	30 3,000		30 8,000	永瀬林廣吉

美野里支部

想えば昭和五十九年三月三日の佳き日に当時の八木下繁一會長さんと岡野全之校長さんを來賓として迎え、美野里支部を結成設立、総会を盛大に開催以来毎年堅実な歩みを経て参りました。平成六年五月二十九日第十一回総会は、幡谷祐一會長と青山和義校長を來賓として迎え町役場内にて盛大に挙行する事が出来ました。役員並に会員の皆様の心からなる御協力に依り、年毎に支部組織が強化されて参りました事は喜びの至りです。会員の皆様は県下一を誇る躍進目覚しい母校の発展を誇りとして、夫々の職場で素晴らしい活躍をして居ります。申す迄もなく私等の母校は平成九年に創立一〇〇周年の輝かしい記念日を迎えます。我々卒業生の感激は誠に絶頂の極みです。我々卒業生はこれを契機に母校の益々の発展に協力しようではありませんか。そして後に続く後輩の躍進を信じ母校の益々の発展を祈念すると共に進修同窓会の発展に努力しましょう。

私達美野里支部も卒業生二百名の現況の下、会員の皆様の御協力に依り支部組織の強化を図ると共に新鮮なる支部事業の完遂に努めていきたいと思ひます。

竜ヶ崎支部

夢多き青春時代を育んで呉れた母校土浦一高は平成九年には創立

美浦支部

一〇〇周年を迎える由、同窓の一人として誠に嬉しく感ずるものであります。さて、当竜ヶ崎支部は昭和三十七年の秋、ごく自然な形で同窓生が集まり懇親会を行ったのがきっかけとなり、支部結成となったものであります。当初は竜ヶ崎、藤代、牛久、その他周辺地域を含め、毎年盛大に支部会が実施され活動して来ましたが、六十年頃より何かと規制や拡大の傾向が見られ繁雑となり断続的となつてしましました。その間、竜ヶ崎支部から独立して支部を結成した地区等あり、平成五年度より入会希望者は拒まないとして、原則として市内在住の同窓を主として活動する事となりました。現在、会員数は百八十一名、大学生も多数居り末広がり年齢層になつて居ります。コミニケーションを密にするため、会員在住の三十三地区を九人の幹事で分担し情報交換、あるいは事務連絡等をしております。本年も八月七日、市内上町の「美松寿司」で母校校長青山和義先生のご来会をお願いし総会を盛会に実施し、来る十二月十日、下町の保健所前の「喜仙」での忘年会での再開を約し、支部の増々の発展と母校の繁栄とを願ひ和気あいあいのうちに散会しました。竜ヶ崎支部は若い会員の自覚と支持により今後より一層の強いきずなで結ばれて行くものと信じて疑わないものであります。

島田 一男 (中四五回)

日立支部

美浦支部は昭和五十六年十二月に故浜田忠枝氏を支部長として設立し、活動をしてきましたが、浜田氏が高齢になつたこと、会員が多忙であつたりして、しばらく冬眠状態が続いていました。

その後有志の方々から再発足したいとの熱烈な要望があり、平成五年七月四日、支部再建設立総会を開催したところ、二十二名の参加を得て、盛大に再建設立総会を行ない、宮本家門氏(中三六回)に支部長をお願いすることになりました。

その後一年間、進修同窓会で美浦村在住者及び美浦村出身者で村外に在住する者全部を掲載した「支部会員名簿」の発行、再建設立総会の状況などを掲載した「土浦一高進修同窓会美浦支部だより」の発行などを行つて会員相互の親睦を図つてきました。

去る六月二十六日、美浦支部の第二回総会が阿見町の割烹に於いて開催されました。当日は雨模様で天候にもかかわらず二十三名の会員の方が出席され、また母校土浦一高からは北島瑞男先生にもご出席いただきました。

総会は支部長を議長にして、平成五年度事業及び決算報告、平成六年度事業計画及び予算案を原案どおり可決し、懇親会に移りました。

副支部長 小泉 幹夫 (高九回)

東京支部

平成六年三月十九日(土)、午後六時よりホテル天地閣に於て、日立支部の懇親会が開催されました。

日立支部は昭和六十三年三月、水戸支部の応援をうけ(当時の幡谷祐一水戸支部長、鈴木操幹事長には大変お世話になりました。)発足致しましたが、その後、一回の懇親会のみでしばらく途切れておりました。

二回の役員会を経て、今回の運びとなつた次第でございます。日立市在住及び、工都日立市に勤務している方々にお声をかけ、三〇名の参加をいただきました。

岡田学蔵事務局長(高十二回)の司会で、島田条一幹事長(高六回)の開会の言葉に始まり、寺田光一支部長(中四〇回)のご挨拶をいただいた後、全員で「沃野一望」を斉唱し、滝田洋副支部長(中四五回)の乾杯の音頭で懇親会が盛大に進行されました。約五年振りの集まりという事で懐かしい土中、一高時代に戻つて、楽しい一日を過ごす事ができたと思ひます。

今回は、比較的、若い方々が出席され大いに盛り上がり、時間がたつのも忘れた程でした。日立支部の会員の皆様には、また次回を企画しますので、その節は是非ご出席下さるようお願い致します。

支部長 寺田 光一 (中四十回)

平成六年度の総会は「お元気ですか?会えて良かった!又会いましょう!」のサブタイトルで、高十二回卒が当番幹事団を編成して、六月十八日(土) 十二時より二時迄上野池之端にある「東天紅」上野店にて、開催されました。

総会の部は進行係を鈴木靖方君が担当し、東進会会長挨拶、活動報告及び承認事項として芳尾敬一(高五回)代表幹事の司会で各担当役員が報告があり、平成五年度の決算、平成六年度予算、新役員がそれぞれ承認されました。幡谷祐一同窓会長、青山和義校長からそれぞれ近況報告がなされ、坂本善之(高八回)副会長の閉会宣言で無事総会が終了いたしました。第二部の懇親会は遠藤文夫君が進行係を担当し、苦竹明直(中二九回)さんの乾杯で始まりまし

た。今年は入り口で出席者全員に番号札が配られ、その番号のテーブルに着いて頂き、全員で十枚以上の名刺交換をし、先輩後輩の交流の場とする事を主眼としました。石塚健二(中四五回)さんには得意の手品を、全員では百円争奪のじゃんけんゲームを行い、優勝者は小銭を一万円以上も獲得し、大変盛り上がった懇親会となりました。幕内邦夫(高二十回)君の音頭で校歌を斉唱し、土金雅晴(高十三回)東進会副会長の閉会の言葉で無事お開きとなりました。

支部長 植木 満 (中三二回)

PTAの役割とは

PTA会長

木村 継



私は先般の総会に於て本年度のPTA会長の要職に推挙をいただき就任いたしました。微力ではありますが土浦一高発展のために全力投球する所存です。会員の皆様更には役員の皆様の暖かいご協力をお願いいたします。

私は、PTA活動をTと生徒が一体となって融和のとれた学校教育が円滑に運営・活動できるようPが側面から協力する活動であると考えています。たまたま世界的組織のボランティア活動に関係する機会がありまして、その中で健全なる青少年の育成に関心をもっておりましてのでPTAの存在が明日の社会を担う子供達の健全育成に必要不可欠であると強く感じておりました。

特に、本校生徒の場合は、一〇〇周年という大きな節目の年度を目前に控えた伝統のある学校であり且つ全国的にも高レベルのところに位置づけられ、注目的であることは、私の申すまでもないところであります。

人間形成の中では、教室での勉強も大切なことですが、将来社会人として立派に成長していく上では校外での体験学習も是非必要であり、保護者もそのためにはできる限りの協力をしなければと思っています。高校時代は人生の中で最も多感な時期であり、生徒達が各自の進む方向を誤ることのないよう援助して参りたいとおもいます。そのことが同時に、伝統ある土浦一高の発展につながるものと信じて結びいたします。

百年一昔

今夏は日本各地で歴史的な猛暑に襲われ記録的な最高気温が観測された年であります。

時に、進修同窓会会員の皆様はいかがお過ごしになりましたでしょうか。

さて、土浦第一高等学校は一八八七年(明治三十年)に創立され、一九九七年(平成九年)に創立一〇〇周年を迎えます。この一〇〇周年は、ほぼ二〇世紀のそれと重なり合う点におきまして、世界の歴史はもとより、日本の歴史においても特に「激動の二〇世紀」とか称される様に、土浦第一高等学

校が旧制土浦尋常中学校以来その激動の波を受けつづ一〇〇年の歳月を経験してきた事は、誠に興味深い大きな意味を秘めている事実と言えましょう。

世に、「十年一昔」という言い方があります。何事も十年過ぎたらちよつと後をふりかえつて見て、新に今後のことを考えようというのではなにかと自分勝手に解釈しております。

さてこの言い方を振る積りはないのですが、土浦第一高等学校は「百年一昔」の時にあたると言つてよいと思います。つまり一〇〇年をふりかえり二十一世紀を睨み、更なる発展を期する機会でありましょう。そしてこの機会こそ、本校で学び、教えられた方々、また常に暖かい眼差しで、本校の成長を見守り且つ応援してくださった地域の人々、そしてこれからもそうしてくださる人達のメモリアルを築く願つてもない時ではないかと思うのであります。

本年七月、進修同窓会会員の皆様により、幡谷裕一進修同窓会長の下に、土浦第一高等学校創立一〇〇周年記念事業実行委員会が発足しましたことは御承知の通りであります。最近、巷間伝わる本校に対する評価と合わせて委員会発足は喜ばしい事であります。事業には大きく二つあります。一つは九十周年記念に作られました「土浦一高史」の流れを受け「土浦一高百年誌」を編纂する仕事であります。

もう一つは記念会館の建設であります。この会館建設の意義は申すまでもなく、土浦第一高等学校の輝かしい伝統を築かれた内外の方々、そして今後本校教育並びに地域の発展に貢献される多くの方々や、新しい歴史を創造し、そして二十一世紀に活躍する生徒達、すべての意ある方々の活用に供することであります。

我が国は、現在、国際社会への積極的な参入を余儀なくされています。それには、一体、誰が何をどうすればよいのかといった議論が絶えません。土浦第一高等学校の役割は、こうした中で、やはり、

「進修」育ちの文人たち (2)

柳生 四郎

風見章
風見章は明治十九年、水海道に生まれた。土中第三回(明治三十七年卒で、武井大助と同窓であった。土中から早稲田大学政治科を卒業し、大阪朝日新聞社に入社、のち信濃毎日新聞社に勤めた。その後政界に入り、近衛内閣の法務大臣となった。

風見は政治家で通したが、文筆にもすぐれ、著書に「祖国」(理論社、昭二七)「鬼怒川雑記」(常陽新聞社、昭二八)などがある。早くから郷土の詩人横瀬夜雨の影響を受けて詩才をのびし、詩や短歌などをのこした。その短歌だけを見ると、

国際社会に於いてリーダーシップを発揮できる人材を育成することを目的の一つにしなければならぬでしょう。

折に、一〇〇周年に因み、本校の将来像にも思いを深くすること意義深いことと思います。

終わりに心苦しい事ではありませんが、記念会館の建設にあたりましては、多数の進修同窓会会員の皆様の絶大なる御支援を仰がなければなりません。この会館の建設は、本校のみならず、地域社会の将来の発展を約束するものであることを固く信じて疑わない次第であります。

石か 玉か問はざれもとは筑波野の小村はづれの土のひとくれがある。これは自分の生い立ちを詠ったものであろう。その他には、花かすみかきわけふも土煙けだてて村を駆けめぐりけり
まただしき道をひらくと筑波野に茨ふみしき突きすすむなり
これは昭和十二年、第二十四回総選挙の折の作で、意気揚々たるものが感じられる。

道真や清磨ほどのひじりだにみちのいばらは避け得ざりけり
昭和十七年、政界を退いたとき
眉あげて行く手にらみてこの浜に林蔵大人も立ちたりけるか
昭和十七年、函館の歌、浜辺に

立って間宮林蔵を思うのである。
布子着て頭巾かぶりて種蒔きす
むすめに春のいぶきを見たり
これはまた何とも可憐な村娘の
姿である。
庭すみにうづくまる石の面なで
汝になぞらふ吾ありとこそ
人間風見章の面影は、これらの
歌ににじみ出ていて心ひかれる。

高田 保

高田保は、土中第十二回(大正二)の卒業で、在学中から「進修」誌上に、「大洗より」「筑波登山」「帰省」「入日のとき」などを発表して文才を発揮した。早稲田大学英文科に進み、劇作家、小説家、随筆家、演出家、俳人として幅広い分野で活躍した。大学を卒業すると、郷土出身の根岸興業に入り、演出をやったり、台本を書いたりしていたが、のち『人魂黄表紙』(原始社、昭和二)、『宣傳』(塩月書房、昭和五)を発表して劇作家としての地位を確立した。『人魂黄表紙』は、澤正の新作劇で上演されて人気を呼んだ。高田にはまた自伝的小説『馬鹿』『人情馬鹿』があり、主人公「井川晋介」によって、彼の行動をうかがうことができる。
高田保の名を一躍有名にしたのは、かの『ぶらりひょうたん』である。東京日日新聞に、昭和二十二年十二月十七日から、二十六年三月二十一日まで、五百二十八回の連載で、敗戦後の混乱した世相や風俗を、風刺とユーモアに富んだ筆致で縦横無尽に批判し、大ヒットして随筆家として一世を風靡

したのである。

その後高田は病氣療養のため大磯町に転地し、昭和二十七年二月二十日、この地で五十六歳の生涯を閉じた。

昭和三十一年七月、保の生家に近い亀城公園の大椎の下に「高田

母校だより

保を記念する、ぶらりひょうたん碑」が建てられた。自然石に「あの花もこの花もみなはるの風」の句を、阿部真之助の書で刻まれている。
— 次回は下村千秋他の予定 —

第47回一高祭
成功裡に挙行

「発見 見つけて so me thing 1994」一高祭で何かを見つけない、そんな1200名の夢をのせて第47回一高祭が6月3日より3日間、開催された。

凱旋門をモチーフしたゲートをくぐると、新体育館、校舎内、旧講堂、そして赤の広場の四つの会場が設けられ、終日賑わっていた。

生徒の参加意識の低下が叫ばれて久しいが、今年の一高祭を見る限り、そんな心配は無用といえよう。特に、3年生は昨年度より準備を進め、「公開裁判」、「縄文時代の竪穴式住居」「人体」は、待つ行列ができるほどの盛況ぶりであった。他にも、宝塚顔負けの「演劇祭」、アイドルに負けず劣らぬ「のど自慢」、白熱した戦いの続いた「ディベート」、真鍋小学校との交流を深めた「ドッジボール」、この他にも書きつくせない程の企画があった。百聞は一見にしかず。ぜひ、来年、ご来校していただきたい。

1200名の「何かを見つけない」という願いから始まった第47回一高祭。各人、何かしらの発見があったと思う。将に、創立100周年に向け、新世紀に向け飛躍を続ける。土浦一高らしい文化祭だったと言えよう。

又、この場を借りて準備にあたった委員達、又、私達の活動に理解を示してくれた先生方、ご父兄に感謝の意を示したいと思う。本当にありがとうございました。

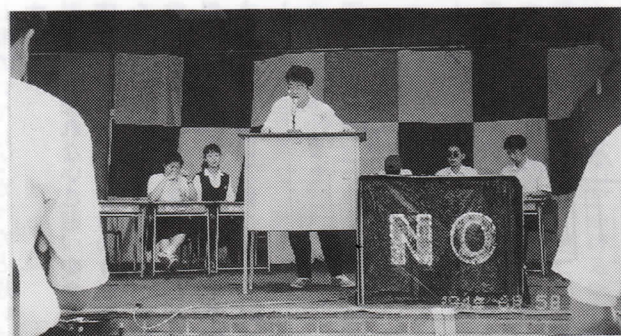
運営委員長 足立 恭将



凱旋門へようこそ



旧講堂かくして解体す



ディベートでの熱弁



ハイ チーズならぬヤキトリ

身近な世界からのメッセージ

真情にじむ先輩のことば

昨年の安藤統男氏に引き続き、今回も同窓の先輩から「人間の在り方」の一端を聞く機会がつけられた。

講師は高十一回卒の佐賀純一氏である。氏は多くの方々がご存じの通り、ご父君進氏（中二十七回卒）とともに、市内桜町で内科医として活躍されている。

先輩より後輩へ
～熱いメッセージ～

同窓から初の大使が誕生

高五回卒の塙哲夫氏が昨年夏、駐エクアドル大使に任命された。塙氏は新治郡新治村の出身。母校卒業後、郵政職員訓練所研修生から、外務書記試験に合格して外務省に入省。ペルー大使館参事官、ペルー公使、バルセロナ総領事を経て、今回エクアドル大使として赴任した。

ほとんどの大使が大学卒。しか

同窓である。単に臨床医としてだけではなく、さまざまな市民運動に参画され、斯界のリーダーとして人々から信頼を深く得ている。今回の依頼にも、後輩たちに一歩先を歩んでいる人間として、何らかの一助にでもなればと、多忙な折りを削いてお話をいただいた。

主な著書

土浦の里、浅草博徒一代、霞ヶ浦水村譚三部作、氷雪のバイカル、ちじらんかんぶん、歓喜天の思想

も東大出身が多い中で、高卒からの大使就任は非常に珍しいケース。スペイン語の専門職として努力と実力が認められた結果である。

過日同窓生による「祝う会」が開かれ、「健康に留意して頑張つて欲しい」と激励し、現地に送り出した。休暇帰国の際には、ぜひ母校に立ち寄り、後輩たちと親しく話してみたいと、語っていた。七月十八日、土浦市民会館で、全生徒を対象に「中南米と私」と題して、一時間半にわたり、現地の風俗、民情等多岐に及ぶ講演が実施された。

その折、学生時代お世話になった永山正・稲見敏雄の両先生もお

生き方の素晴らしさに感動
佐賀純一先生のお話を聞く

高辻 千恵

先日、「身近な世界からのメッセージ」という題で、大先輩の佐賀純一先生のお話がありました。「人間は変身する。人間は生まれかわる」ということを中心に、先生の中・高生時代の話に始まって、これまでの豊富な人生経験をユーモアを混じえて生き生きと話して下さいました。

内科の先生で、たくさん本も著されているということで、内心とても難しい内容なのではないかと思っていました。いざお話が始まってみると、そのテンポのよ

塙哲夫先生の講演を聞いて

河崎 薫

現代百科事典「知恵蔵」によると、エクアドル共和国は、次のように説明されています。

「一八三〇年、グランコロンビア共和国から分離独立。エクアドルはスペイン語で『赤道』を意味する。地図で見ると、首都キトは、まさに赤道直下にあたつています。今までエクアドルやキトといった言葉を聞いたことはあったのですが、その位置といった具体的な事はよく知りませんでした。私のように「知らない」ということ

さ、深い教養、人間味あふれた話し方にすっかりひきこまれてしまい、時間が経つのを忘れるほどでした。

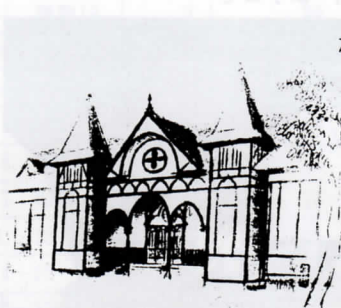
特に私の印象に強く残ったのは、雪崩にあつて命拾いをした話などの後で、「人生で最も重要なことは、死に瀕するような状況、挫折を味わつて強さを身につけることだ」とおっしゃったことでした。ああ、この方はこういうつらい体験や大変な思いをしたことを一つ一つきちんと消化して自分の人生の糧として大切にされているんだなと感じました。そして同時に、自分の人生観の甘さと弱さをつくづくと思ひ知らされたような気がしました。多分そう感じたの

は、南米に対する誤解を植えつけるものになつてゐるのかもしれない。

今回の塙先生の講演は、南米諸国の様子を数値をまじえて解説する、といった方法で、南米という所の輪郭を少し頭の中に描けたような気がします。南米というと、政情不安や経済危機ばかり取り上げられていますが、塙先生によると今日ではテロ行為も激減し、政情も安定してきているそうです。むしろ21世紀へ向けて新たな飛躍をめざす「有望地域」なのだそうです。それらの話を聞いて、今まで耳の右から左へとぬけていた南米の情報への関心がわく、よい契機になったと思います。

は私だけではなかったと思います。

挫折を恐れないこと、変身して実社会で生きていけるような強さを身につけるといことは、口で言うよりもずっと難しいことだと思ひますが、私も少しでもそういう力を身につけられたらと思ひました。



塙先生は、日本初の「大学」という教育機関を通過せずにエクアドル大使になった人物だということです。しかし塙先生を「高卒でも大使になった人」とするのは、並の大学以上に努力した結果必然的にエクアドル大使となった人物」ととるべきだと思ひます。塙先生の講演を聞いた私は、人間を学歴という物差しで測ることの無意味さを感じました。自分の最終学歴に依存する人よりも、自分の力を信じてひたむきに自分の進みたい道にむかって努力を続けた人が、結局は人生を充実したものにすることができる、ということなのではないでしょうか。

「国公立・私立大と もに空前の好記録」

平成六年度大学入試状況報告

平成六年度入試は、空前の成果を納めた。生徒諸君の努力はもとより、本校職員、保護者共々一致協力して奮励努力した結果の賜である。特に学年関係職員の熱心な指導と、三年間にわたる労苦と努力に大なる敬意を表したい。

国立大学では、東大で三十名の合格者を得て、本校の進学実績に新しい記録を樹立した。現役生二十一名の合格も本校では史上初の快挙で、これは公立高校では全国第二位にランクされた。東工大十九名合格も新記録で、全国第六位、その内現役生十二名合格も記録更新の好成績であった。

地元筑波大学の五十八名合格（現役生四十九名）は、当然のことながら例年のごとく全国第一位を確保したが、成績は平成三年度入試の五十九名合格、現役生五十一名にわずかに及ばなかった。

私立大学受験もすこぶる好調で、慶応大五十九名合格は、現役生三十名と併せて新記録。同様に明治大七十名、現役二十五名合格も新記録であった。早稲田八十一名、東京理科大学一〇〇名、青山学院三十一名、立教大二十七名

合格などは、いずれも本校の合格数の記録を大幅に更新した数字である。

特に私大受験では、過年度卒業生の健闘がめざましかった。延べ四七六という合格延べ数は、平成元年度入試の三〇五、二年度入試の二九五、三年度入試の三三〇、四年度入試の二九〇、五年度入試の三六一という数字に比較してみれば、過年度卒業生の奮闘、努力がいかに素晴らしいものであったかは歴然としている。過去五年間のピークであった昨年度入試の三六一名に比較しても一一五名の合格増になっている。

本校の今までの大学合格総数は八〇〇名から九〇〇名台にとどまって、過去の記録をみても、平成三年度入試の九七七名が最高で、合格者延べ数が四桁になることは一度もなかった。しかし今年度の大学入試では、「一〇八五名」という驚異的ともいえる数字を得て「夢の一〇〇〇名」を難なく超えてしまった。これは過年度卒業生の圧倒的ともいえる私大合格数の増加が主たる要因であった。

進路指導部

平成六年度大学入試 大学別合格者数一覧表

大学	新卒	旧卒	合計	最近5年平均
旭川医科大学	1	1	2	1.0
北海道大学	3	3	6	7.2
東北大学	18	5	23	21.4
秋田大学	1	1	2	1.4
茨城大学	16	3	19	27.6
図書館情報学	1	1	2	4.2
筑波大学	49	9	58	50.8
宇都宮大学	1	1	2	5.0
群馬大学	2	2	4	2.8
埼玉大学	4	3	7	10.2
千葉大学	7	4	11	13.6
お茶の水女子大学	2	3	5	4.0
電気通信大学	3	3	6	2.6
東京医科大学	21	9	30	23.4
東京医科歯科大学	1	1	2	2.6
東京外国語大学	5	2	7	3.8
東京学芸大学	5	4	9	9.0
東京工業大学	12	7	19	11.2
東京農工大学	1	2	3	2.4
一橋大学	3	1	4	5.0
横浜国立大学	5	8	13	9.8
新潟大学	1	2	3	1.0
金沢大学	2	1	3	2.4
山梨大学	1	1	2	0.6
信州大学	1	1	2	5.0
静岡大学	1	1	2	1.2
名古屋大学	2	1	3	6.8
三重大学	1	1	2	0.8
滋賀大学	1	1	2	0.8
京都大学	2	3	5	5.2
大阪大学	2	3	5	3.8
神戸大学	1	1	2	1.8
島根医科大学	2	2	4	2.2
高知医科大学	1	1	2	1.0
国立大学計	165	86	251	286.6

公立大学	新卒	旧卒	合計	最近5年平均
福島県立医科大学	1	1	2	0.4
東京都立大学	5	5	10	5.4
横浜市立大学	1	2	3	5.6
都留文科大学	1	1	2	0.6
京都府立大学	1	1	2	0.2
京都府立医科大学	1	1	2	1.2
大阪府立大学	1	1	2	1.2
神戸市立外国語大学	1	1	2	0.6
北九州大学	2	2	4	0.6
公立大学計	5	11	16	18.8

大学	新卒	旧卒	合計	最近5年平均
防衛医科大学	1	1	2	2.4
防衛医科大学	1	1	2	0.2
防衛医科大学	1	1	2	0.6
大学校計	1	2	3	4.0

私立大学	新卒	旧卒	合計	最近5年平均
私立大学計	337	476	813	608.6
国立大学計	165	86	251	286.6
公立大学計	5	11	16	18.8
大学校計	1	2	3	4.0
私立短大計	1	1	2	0.0
合計	509	576	1085	900

私立大学	新卒	旧卒	合計	最近5年平均
文京学院大学	3	3	6	4.0
文京学院大学	6	4	10	3.4
亜細亜大学	1	4	5	0.4
青山学院大学	13	18	31	19.0
学習院大学	8	7	15	11.8
北里大学	2	2	4	3.0
共立女子大学	1	2	3	3.2
慶応義塾大学	30	29	59	37.6
工芸大学	2	2	4	5.2
国際基督教大学	3	2	5	2.0
国士舘大学	1	2	3	1.4
駒澤大学	2	7	9	7.0
芝浦工業大学	11	7	18	10.6
上智大学	12	13	25	19.6
昭和女子大学	2	2	4	1.6
昭和女子大学	2	2	4	0.8
昭和薬科大学	3	3	6	0.6
女子美術大学	1	1	2	0.2
成城大学	3	4	7	4.4
聖心女子大学	1	1	2	2.2
清泉女子大学	1	1	2	0.4
専修大学	1	4	5	7.6
大正大学	1	1	2	0.2
拓殖大学	1	1	2	1.8
中央大学	21	24	45	34.8
津田塾大学	7	1	8	5.6
東海大学	2	4	6	4.2
東京女子大学	3	4	7	9.4
東京造形大学	2	2	4	0.6

私立大学	新卒	旧卒	合計	最近5年平均
東京電機大学	2	4	6	12.0
東京農業大学	5	1	6	3.2
東京薬科大学	2	3	5	3.6
東京理科大学	41	59	100	65.0
東洋大学	1	4	5	5.0
東洋大学	3	8	11	7.6
日本社会事業大学	16	21	37	27.6
日本女子大学	2	2	4	2.0
法政大学	11	3	14	15.8
武蔵工業大学	14	28	42	32.0
武蔵工業大学	1	4	5	4.0
明治大学	1	1	2	4.2
明治大学	25	45	70	39.2
明治大学	7	8	15	11.2
明治大学	1	2	3	3.2
明星大学	1	1	2	0.2
立正大学	7	20	27	14.4
立正大学	1	1	2	2.2
和光大学	1	1	2	2.2
早稲田大学	39	42	81	62.4
鶴見大学	1	1	2	1.0
フェリス学院大学	1	1	2	2.0
京都薬科大学	1	1	2	1.0
同志社大学	1	8	9	3.6
立命館大学	4	11	15	9.2
関西大学	1	6	7	2.0
関西学院大学	1	3	4	1.6
その他	56	56	112	11.2
私立大学計	337	476	813	608.6

☆ 以下に挙げるのは、本校での合格数の記録を更新した数値である。

現役合格数：東京大学30名、東京工業大学19名、慶応義塾大学59名、早稲田大学81名、明治大学70名、東京理科大学100名。

現役合格数：東京大学21名、東京工業大学12名、慶応義塾大学30名、明治大学25名。

☆ 「最近5年平均」の欄は、平成元年度入試から平成5年度入試までの平均合格者数。空欄は0である。

真夏のアカデミックショック

「サマーセミナーイン筑波」

一年のときは、大自然(?)に恵まれた東北の地、磐梯高原にて二泊三日の共同宿泊学習を経験した。級友とともに食事をし、入浴をし、夜遅くまで語り合った。そうそう、花火をしたクラスやバーベキューをやったクラスもあった。また、足にマメを作りながらも頂上を極めた磐梯山登山、美しい五色沼のほとりを歩いたハイキング、猪苗代湖のほとりの野口記念館入場など、十分に自然を満喫した。この貴重な経験は、生徒諸君に少なからず「ネイチャーショック」を与え、脳裏に鮮明な印象を焼きつけたことと思う。二年に進級した今、第二弾「アカデミック・ショック」を経験してもらおうと「サマーセミナーイン筑波」を実施した。この経験が、生徒諸君に自己変革をもたらすと同時に、劇的な成長を期待するものだ。参加した生徒の感じた「アカデミックショック」を反省文から紹介してみたいと思う。

学生主任 柴田 克洋

私は継続的な勉強をほとんど皆無と言っている程だったことがなかった。そして挙げるならば中三の時の受験前の一カ月ぐらいだろう。高校にはいってからもテスト前一週間はかなり集中して勉強しているため何とかなっている訳だ

が、しかし「何とかなっている」が故に、やる時は本当にやるが、日頃の努力が欠けた人間になってしまった。このままでは大学受験が大変になると思いつつ、まだ現実的に考えられない自分に気合いを入れようと思い、サマーセミナーに参加した。

第一のショックは予習の時だった。時間が足りない。午前中は部活動でできないため午後になるしかなかったが、「Z会」のたまっていたしまった問題もやらなければならなく、一日に予習に費やした時間は三時間、五時間だけで、終わる訳がなかった。時間が思うよりも少ないことを認識することができたのはよかったと思う。

第二のショックは周りの人が本当によく勉強しているという事である。講義が終わって、部屋に戻って「ああ疲れた」と思っている壁にもたれてのんびりしていると、部屋の人達が一生懸命予習をしていたり、夜十一時半頃に私がもう寝ようとしていると、他の人は「まだ明日の予習が終わらないから」と寝る気配もなかったりして、あせりを感じた。これが今まで毎日続いていたとしたらと思うと恐ろしくなった。この事により、私の目的はほぼ達成されたと思っている。

第三のショックは、受験まで思った以上に時間がないこと、そしてしなければならないことを予備校の先生方の話で認識したことだ。受験を頭のどこかで「何とかするさ」と考えていた私には本当にショックだった。

先生がアカデミック・ショックという言葉をもどきの意味で使おうとなさっていたかは私にはよくわからないが、とりあえず私の受けたショックは今のところ右の三つである。これで私が毎日勉強するようになるかは今はまだわからない。でも勉強しなければと思

報われた一年間の汗！汗！

「関東大会出場のパドミントン部」

後日談「十月一日現在、がんばっています」 浜田美恵子

やったこと、また九十分の講義に何とか耐えてやれば勉強できるという自信がついたのは確かなことだ。私にとってこれからは、「やる時はやる」の「やる時」をどれだけ長く作れるか、それから今回「勉強しなければ」と感じたことを実行に移せるかの自分との闘いになると思う。まず、サマーセミナーから帰った日に勉強するしかないかでの自分の意思を試すつもりだ。

私は、この文章を書くようにと頼まれた時、とても困った。というのは、私は関東大会のメンバーではあっても試合の時は、他のレギュラーではないメンバーと一緒にベンチから声援を送っていたからだ。実際、私はメンバーのなかでは一番下手であったと思う。でも関東に行きたいという気持ちは他のメンバーにも負けていなかっただろう。

関東大会出場！この事は私たちパドミントン部が毎年のように目標としていたことである。入部した時からあることに先生から言われていたが、私が本当にその言葉を意識しはじめたのは、おそらく他のメンバーも同じだったであろうが、一年前の関東大会の予選が終わったときである。部員の

挙げる事ができたこと、続く東京の関東第一高校戦で感じた、次につながる試合をすることの大切さ、県大会では好敵手である藤代高校や若狭学園の応援、大勢で応援してくださったOBの方々と、メンバーに入らなかった部員達から、改めて感じた一高パドミントン部の一体感。そんなことをこうして書くことはできても、うまく伝えることが私には分からない。たぶん他のメンバーにとっても他人には伝えることのできない貴重な財産になったであろう。

副部長 黒沢 英介

期日 六月十・十一日
会場 東京・駒沢体育館
成績 1回戦
土浦一高2-0春日部共栄高
2回戦
土浦一高0-2関東一高

編集後記

新しい紙面形式は如何でしょうか。原稿には、紙面の関係でかなりの部分に手を加えましたことをお詫びいたします。

叙勲の報は何らかの形で通知があった方々を掲載いたしました。支部総会・同級会等を開催した場合は是非原稿を寄せて下さい。次回発行は平成七年十月の予定です。